

■ 今月のコロナはどうなるでしょうか

3月になりました。コロナの勢いは下降傾向になってきたようですが、まだ気を許すことはできません。2月には医療関係者へのワクチン注射が始まり、4月には高齢者への注射が始まることになりました。今後、全国民にそれがいきわたるには相当の時間がかかることでしょう。

中部・近畿圏などにおける緊急事態宣言は2月末に解除となりましたが、今月7日に期限を迎える首都圏の解除はどうなるのでしょうか。

気温も上昇し花も咲き、自粛生活からの解放で、思いっきり外の空気を吸いたいところですが、シニアクラブ行動開始の判断は、今しばらくコロナの推移を注視してからになります。

今月のシニアクラブ便り電子版は、2月の zoom 会合を反映して「暦と時」がテーマです。

■ 桃の節句 (3月3日)

3月3日は江戸時代の五節句の一つで「上巳(じょうし)の節句」と呼ばれ、諸大名が江戸城に登城する仕来たりとなっていました。その日を狙って、水戸浪士が登城途中の大老井伊直弼を襲撃した事件が「桜田門外の変」です。

旧暦で安政7年(万延元年)3月3日のことでした。(新暦1860年3月24日)



桃の節句に飾られる雛人形には、その家の娘に降りかかる厄災を身代わりで被ってもらう、という願いが込められているそうです。さすがに、雛人形は井伊直弼の身代わりになることまではできなかったようですね。写真は、遠壽院【注1】の表堂の中に飾られた雛人形です。

つい先日までは荒行に励んだ修行僧達が祈祷を唱えていた場所で、大きな声が響いていたのとは対照的に今は静かに飾られていました。

【注1】シニアクラブ HP ● 会員からのお便り 1/30、2/18 参照

■ zoom会合 <http://jvc-senior.com/210211zoom2.pdf> 参照

2月11日(木)に2月度の zoom 会合を開催しました。

自称“天文ダイチョー”の宮田宏美さんから「天文と暦」をテーマに歴史上の事件や出来事とその時に起きた天文現象や暦とどのように関連していたか、との話がありました。



織田信長が本能寺の変で横死する前日に、世間では不吉な予兆と考えられていた日食が起きていたこと、信長は当時の暦が不正確なので、新たな暦に変えるよう朝廷に進言していたが、信長の死により変更はなされず、その後、江戸と京都ではそれぞれが使用する暦の不一致により、式典開催日に齟齬があったことなど、興味ある内容でした。

今月は「バーチャルお花見会」となります。皆様、多くの写真を準備しておいてください。開催日は別途ご案内いたします。

■ 田中久重【注2】の万年時計(万年自鳴鐘)

江戸時代に生まれ、からくり人形など傑作作品を残した“からくり儀右衛門”こと「田中久重」が3年をかけて1851年(嘉永4年)に完成させたもの。

現物は上野の国立科学博物館に置かれているが、その復元品(レプリカ)が川崎にある東芝科学館で展示されている。【注2】東芝前身となる会社の創設者

2004年(平成16年)に国のプロジェクトとしてこの復元事業が行われ、内部の細かなメカニズムが解析されて完全に作動するレプリカを作成。翌年、愛知県で開催された「愛・地球博」で展示された。

その復元プロジェクトの映像を youtube で見ることができるので参照されたし。

復元プロジェクトの映像 [田中久重の万年時計【Full & HD】 - YouTube](#)

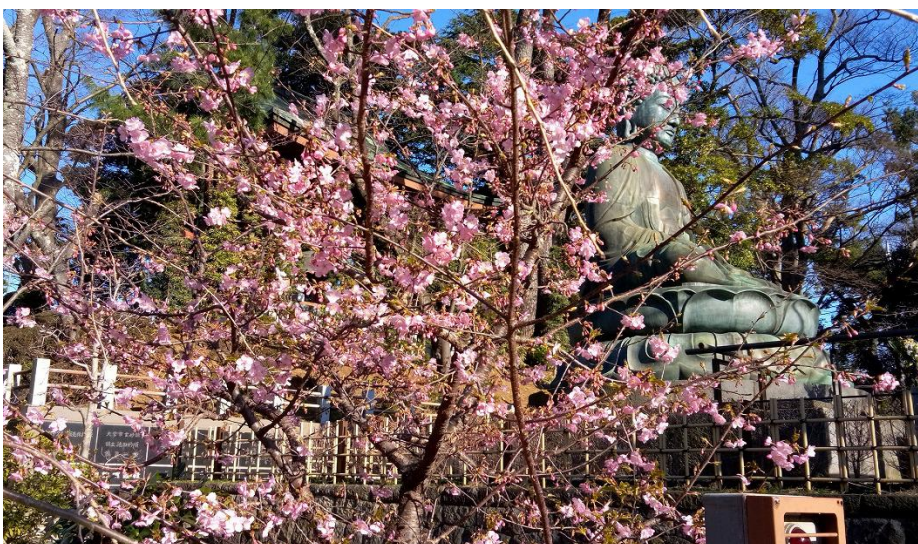


私(田代)は以前、東芝科学館でそのレプリカを見たことがありました。その時は「きれいに仕上がっているな～」程度の感想しか持ちませんでした。この映像を見て田中久重が知恵をひねり、すべて手作業で「よくぞこれだけのものをまとめあげたな!!!」と、改めて感動するほどのものであることを理解しました。「江戸時代の不定時法」に合わせた和時計の文字盤移動機能をはじめ、現代の人でもすぐには理解できない田中久重のアイデアが随所に盛り込まれていることが紹介されています。

この復元事業で分解・組立てに直接取り組んだのが習志野市にあったSPI(SEIKOグループ会社)で、JAM千葉シニアクラブにいるその会社OBに当時の様子などを聞きました。

復元事業が行われた17年前は、会社ではすでに電子式時計が主流となっていて、機械式の時計を扱えるものは誰一人おらず、当時70～80歳代のOBに呼び掛けて作業に当たってもらったとのことでした。

現在、時計の生産そのものも海外に移転されてしまい、かつてのSPI という会社はすでに存在しないとのこと、どこも同じような運命をたどっているんだな～と感じました。



事務局長 田代 周

法華経寺境内に1本だけ
ある河津桜がほぼ満開だ
(2021.2.24 撮影)